

672
ホシエ

号十七百第



Handwritten scribbles or initials in the upper right corner of the illustration area.

3407
33

追悼日誌

七月三日 午前七時ヨリ行幸記念式ヲ舉行ス
九月一日 午前八時ヨリ始業式ヲ行フ
九月十八日 兼西園寺公良ノ遺徳ヲ授揚ス

一、金拾円也 海野輝雄殿
一、金拾円也 江口栄吉殿
一、金拾円也 備品黄へ 奥山スエノ殿
一、金拾円也 保護者會黄へ 浅沼祥殿
一、金拾円也 備品黄へ 大道金松殿

- 一、金拾円也 海野輝雄殿
- 一、金拾円也 江口栄吉殿
- 一、金拾円也 備品黄へ 奥山スエノ殿
- 一、金拾円也 保護者會黄へ 浅沼祥殿
- 一、金拾円也 備品黄へ 大道金松殿

「尋」の文

なつやすみ

ぼくは七月三十一日に ちくせん丸へ むかへ にはいさま、
した。 ぼくたちは さがしました。
そのうち おねえさんが みつかりました。 そして うち
にかへりました。
毎日 海について およぎました。
八月二十五日 になりました。 おねえさん いったら せび
しく なりました。

うし

石津 秀子

だいじんぐう山に うしが あます。
小さい うしも あます。
きで かつ 私 は あんぶ して つれて 行って あげ
ます。 すると きよう子は うれしが ついて みます。

せんにも私がつれていきました。うれしがって「コ
ニフしてみておりました。するとうしが
「ウンモウ」
といひましたので私はびっくりしました。

原田 都

なつやすみにみち子がびやうきにかかりました。
みち子があないのでさびしくなつてしまひました。ばん
になるとかあちゃんが

「みち子は どうして おるだらう。
となみだをながして いひました。」

あくるあさみち子がびやうめんからかへつてきま
した。かあちゃんが

「おまへはどこにねたかしてあるか。
ときくとみち子はだまっておりました。人が大せいうち
だつたから日にやけないように」といひました。ジフテリヤ

尋三のつりか

参りしのかへつて来た。

図 お参り 渡辺三朝

今身はちやうち参りだのぢやないか。だのとい
ちよく悪い病氣がはつたり雨が少しも降ら
なかつたりして困つて居たので村の人たちが
さうだんをして神様においのりすることに
つた。さうして、まのふ路敷の校舎先が
お参りして下さつたので、その後、一時から方
夫君と大神山神社へお参りに行つた。
僕は拜殿の前へ進んで、お参りしてをかん
だ。そして、神様に
「神様僕たちが大で病氣なにか、ち
ないやうにお願ひします。」

と、口の中で言つておいのりした。僕たちが
お参りに行つた時は、村のもうだいさんたちが
大せい来てゐた。僕は、大神山神社を不
秋葉神社にお参りして、今度、こんびり様と水
天宮様にお参りした。みんな同じやうにお

図 お参り 村松トシ

雨が降らないので、島の物がだめになつた。こは
い病氣など、かはやるので、その病氣をばな
さうとして、お密にお参りに行きました。と中
「早く病氣がなくなればよいな」と思ひながら
行きました。水天宮、秋葉神社とお参りし
て大神山神社に着きました。身をすくすく
を洗つて、多石をちやりくと、おいのり、拜殿の前
へ、お参りした。すくすく、と、おいのり、
けいれいをかいた。参りし、参りし、
「いどうか雨が降つて、病氣がはやらないや
うに、家の人をだれも病氣しないで下さい。」
といひました。あとで、お参りに行
つて、まかつた。」と思ひました。

図 お参りしなかつた 石田セン

このおは、お参りに行く日です。参り、参り、
からまわつて来た。私はずい見ましたけれ

思ふ存分泳いでそれから船のへつた、
休中とこへも行かなくなつたから小港へ行つた
事が夏休中での一番の思ひ出である。

えびしやくり 田崎文平

あ、い、天気だ 思はずさけんぞとび起きた
此の分では行けるだらうと思ひながら顔を洗
ひに行つた、間もなく父も起きた、
兄ちやん行かうぬ 引込 父がうんといつ
たので胸がわくわくして早くごはんになれ
ばい、わーと思つた「おちやんが前に行かない
か」といつたら「おれが行く」とおこつた
様と言つたので僕がびっくりしたが「おん
ら政夫君をつれていくよ」といつた、そのう
ちにもうごはんの仕度が出来たかと思つた食
べてはらぞうりをして三人はサスイでい
けた 行先は境港である、いづらこいもな
かく、道まわい、こゝががささかしくなるだ
と又一生けん命にこゝをわたりさうくつた。

雨

木村タケ

今年の夏は雨がちつとも降らなかつた。
お母さんは「今日は天気が悪いからきつと雨が
降るよ」といつて喜んでいました。
やがて雨がザーザーと降つてきたかと思ふと
いたばかりがピカピカと光つた。
すると今まで降つていた雨がバツタリやんだ。
空は昔々として所々に雲が見える位になつた。
お母さんは「お、今の雨がきつと降つてくれ、
ばよかつたのに」といつてうらめしさうに空を
ながめていた。

早稲の夏もすきて勉強に遊んで動に

暑も都立の夜、気候となつて

来りした、休中に入つた入つた入つた

あつたあつたあつたあつたあつた

夏休の思ひ出

尋六の綴方

川埋め 佐山和子

新しく学校を建てるために舊校舍の裏の川
を埋めるので私達は夏休中、四日毎に行つて砂を
はこびました。川は一米二米と一月まじに新し
い土が盛り上げられて行きました。ハツの間は
か半分は二、三埋めた頃先生が「みんなの力は
夏休中にはとても埋めきれないと思つたのにも
うこんなには埋つた。これは大人の力か手傳つ
てくれたからだ。けれどもみんなが一生懸命に
汗を流してやつて居るので大人も感心して手傳
つてくれたのだ。してみればやつぱり皆の力で
やつたのも同じ事だ」とおつしやつた。それ
聞いた時私は何だかうれし、気がした。もう少
してうまからうと心をこめて砂を運んで居る内
に休まず終ると共に川も埋つてしまつた。どう
か私達が卒業した内に此の上には新しい学校を
建てる下すい。

鯉フリ

和河清

夏木に一番集まかつたのは鯉フリにやつた事
である。ズルズルと川を流す音が耳がす
ずると思つてあたりを見てもまださう暗かつ
た。船の前のうしろは掛声をかましく「えんやん
といかりを上げて居る。だんく、頑固くなく
て来た。船は波を切つて遊んで行く。おこを
差して行くのであらう。港口を出ると母島の
方に向つた。僕はだんく、気が持た悪くなくつて
来たので横になつた。急に船の速さがの
ろくなつた。はちやん、と、お音。何たり
うと思つて止ると、お音、居るは居るは鯉
の大軍、もう夜は明けて、波は朝日を受け
て金色に輝いて居る。つれづれ、作下す
のまなな、船の網の間にはまだ、く間は鯉
の山がさづかれ行く。しばりくして漁業丸
か私達が卒業した内に此の上には新しい学校を

猫と僕

山下岩甫

僕は昨日 憲ちゃんの家へ勉強に行つた。その時 猫が向うにおたので僕がニヤウ／＼と 猫の泣き聲をみると猫が僕の方へ来たので又ニヤウ／＼といふと僕の前に来て不思議な かほをして僕の周りを ぐるぐる 廻るのを 笑をこらしてゐると もう一つの猫が来て、其の猫をつれていって、じやれし、とくみ合ひしたり、たんすに飛び着いたりしてゐるの で僕がニヤウ／＼と泣きまねをするると二匹ともに僕に近づいたので、僕が寝ころぶと、顔の前にきて、はめたので、思はずシツと云ふと、ぐりしたとみえて二匹とも外へ逃げて行つてしまつた。僕は猫のジヤレるのを時々一心に見ておいて一人でフキダスことが度々ある。ほんとうは無邪氣なものだ。

我が國が世界第一の畜物産は

- 一 生糸
 - 二 絹織物
 - 三 綿織物(綿布)
 - 四 水産物
 - 五 板ガラス
 - 六 セルロイド
 - 七 樟腦
 - 八 薄荷
 - 九 除虫菊
- 此のほか、我が國では 世界第二位第三位といふぐあひに世界的工業品が筍のやうに現れつつあります。なんと喜ばしいことではありませんか

高二綴方友に與ふる手紙

黒川三義君へ 佐々木勇

段々ときびしい暑さの夏も過ぎて冷しい讀書の秋となりました。貴君は元氣で暮して居りますか。僕等は夏休になつてから今まで實に元氣旺盛に暮して居ります。八丈島はもう大分寒いこと、思ひますか如何でせう。大村では九月十日に水泳大會がありました。一般の人をはじめ青年團學校生徒も交つて行ひました。僕等の級でも五人ばかり出ましたが石井良郎君などは二百米平泳に出場し青年團や一般の人から出た人達二人を相手に戦ひ美事に一着を取りました。また外に平次郎君等も自由形五十米に出場し一等を取りました。その四日はかり前の日は波止場から黒岩まで遠泳を致しました。其時は僕も加はつて往復千五百米位の所を泳ぎました。が、案外平氣なので遠泳には自信がつかりました。色々書きた

い事がありますか此の位でやめておきます。最終に貴君の幸福と健康とを祈ると共にめづらしい地圖を送つて下さつたことを厚く御礼申し上げます。 九月十九日 勇より

海野輝雄君へ 浅沼良次

輝雄君には其後何のお交りもなく毎日元氣に學校に通つてゐるとの御便りを先生に聞き誠に結構のこと、存じて居ります。僕等一同も無事に毎日通學してゐますから安心して下さい。君もついに御承知の通り父島は去る六月以來日照り続きで雨と云ふものは夜ほんのすこし、か降らない為山に野生する植物もだん／＼枯れてきて山のあちこちに斑痕をうつたやうに枯木に見受けられます。ではくばしいことは次便で傳りませう。お身体を大切に。 さやうなら。 良次

名和田早苗様へ 小野キヨ子

早苗さん、その後御変りはござりませんか。私達高等科第二学年一同も皆元気で第二学期を迎へました。早苗さん、八丈島は好い所ですか。この父島も早苗さんかめた時とは大分変つて来ました。学校の裏の川なども八月中にすつかり埋つて珍らしいものが多いです。島には父島と違つた珍らしいものが多いです。早苗さん、私達の級もだん／＼よくなり、この頃では時々先生にほめていた、く程になりませんでした。そしてけんく物等もずいぶん少なくなつたやうです。はれどもまだ、缺點はあるやうです。それを私達心を合せ一生懸命努力して、これらの缺點をだん／＼なくして行くつもりです。早苗さんはいつも愉快さうに／＼してゐて、組の人達を笑はせてゐました。それが早苗さんかなくなつたのでさびしくなりました。早苗さん楽しい運動會競技會も近づいてきました。もうそろ／＼練習を勧めます。

では早苗さん御体をお大切に。さよふなら。キヨ子より
 九月十九日
 九月二十五日
 浅沼さち子様へ 木村サヨ
 其後おかげありありませんか。さちさんお扇村の住ひにもうなれたてせうね。大村におた時は皆と一しよに遊んだことを思ひ出すことせう。奥村に遊びに行つてもあなたかゝるなにとさびしくて、こころはあまり行きません。扇村へ行つた時は一しよに遊びませう。扇村の小学校では先生の先生におそはつておりにたなりますか。文字さん、千代子さんなど昔のお友達かゝるのですか。うさびしいことはいない苦です。大村にもたには遊びにいらつしやい。おはつかうたを御大切に。さちさん、九月二十五日
 さち様

昭和十年度大村高等小学校児童保護會経費決算報告書

収		支	
前年度	本年度	前年度	本年度
現金繰越	四九八一〇	現金繰越	四九八〇〇
雑収入	一〇六八四〇	雑収入	一〇六八四〇
計	二、三九四、〇九〇	計	二、三九四、〇九〇
配給用品費	一、八五七、〇五〇	配給用品費	一、八五七、〇五〇
貸與備品費	三三七七五〇	貸與備品費	三三七七五〇
庶務費	六六三〇	庶務費	六六三〇
旅行費補助	五〇、〇〇〇	旅行費補助	五〇、〇〇〇
運動會費補助	八〇、〇〇〇	運動會費補助	八〇、〇〇〇
展覧會費補助	五〇、〇〇〇	展覧會費補助	五〇、〇〇〇
決算額	三、五九二、四〇〇	決算額	三、五九二、四〇〇
増減	四、九八〇	増減	四、九八〇
備	五、六八四	備	五、六八四

基本金利子九十年度分四、四七九〇
 増減四、九八〇

學校會費補助

五〇〇〇〇
二〇九〇〇
一五〇〇〇

五九〇〇〇
一〇〇〇〇

合算額一〇二四二〇 財令一五〇〇〇
六〇〇〇 指定事務七五八八〇〇

出
雜費

四〇〇〇〇
一五六一二

五〇〇〇〇
三六四三〇

次年度繰越一五〇〇〇〇

計

三三九四〇〇〇
三三八七〇五〇

次年度繰越

配給品残

四〇〇〇〇〇
四〇〇〇〇〇

次年度繰越

財產

什器

二〇五〇〇〇
一五〇〇〇〇

戸棚大ニテ五〇〇〇 小八八〇〇〇
算額一〇二四二〇 財令一五〇〇〇
計数大ニテ六〇〇〇 算額一〇二四二〇
計数小ニテ六〇〇〇 算額一〇二四二〇

貸與學用品

一〇〇八三六八〇

郵便貯金トス

基本金

一〇〇八三六八〇

計

一四三〇八六八〇

昭和十一年度大村尋常小学校児童保護者會經費豫算報告書

建設費

要目

前年度
給親品繰越

本年度
予年類

前年度
予年類

増減
△中減

備

考

現金繰越

四〇〇八三三〇

三九二四〇〇

三〇〇一九〇

八八四〇十一月分

會費

一九四四八〇〇

一九三六〇〇〇

八八〇〇〇

郵便貯金列子三〇月
郵便貯金共他 五〇〇

雑収入

八〇〇〇〇

五〇〇〇〇

三〇〇〇〇

補充

計

三四八七五〇

三三八七〇五〇

六一七〇〇

配給學用品費

一八六〇〇〇〇

一八六〇〇〇〇

一〇〇〇〇〇

補充

貸與學用品費

二〇〇〇〇〇

三〇〇〇〇〇

一〇〇〇〇〇

庶務費

一〇〇〇〇〇

一五〇〇〇〇

五〇〇〇〇

旅行費補助

五〇〇〇〇〇

五〇〇〇〇〇

一

運動會費補助

八〇〇〇〇〇

八〇〇〇〇〇

一

展覽會費補助

五〇〇〇〇〇

五〇〇〇〇〇

一

衛生賞	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一	五〇〇〇〇	肥後海、服用及營養藥
基本金造賞	一八〇〇〇〇	一五〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	会費ヨリ一〇〇〇月 掛入ヨリ八〇〇月
雑賞	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一	一	係職負手当
豫備賞	四八七五〇	五二〇五〇	三、三〇〇	三、三〇〇	
計	二、四四八、七五〇	二、三三八、〇五〇	六一、七〇〇	六一、七〇〇	

備考

- 一、次年度ニ約四百圓程度ノ現品(配給)ヲ繰越ス予定ナリ
- 一、昭和十年四月末日児童数四一九名 昨年度一三名減
- 一、標準口数ヲ繰出スルモノ 三三七名 一六名増 八八四口
- 一、標準以上ヲ繰出スルモノ 三八名 三名減
- 一、標準口数ヲ繰出スルモノ 五三名 五名減
- 一、由上ナキモノ 一名 七名減

保護者の方々ニ

先年度の會計は五月末と以て決算十年度の予算を評議會の決議と
 して總會に何時でも学校の都合のよき時に開會して報告申上りること
 になつて居りましたが本年度は春以來種々の理由で開會に多岐の事情
 ありて遂に第一學期中に開會することが出来ませんでした。申譯なく存じ
 ます。茲に第二學期にも開會することが出来ません。この上は誠に
 告申上げます。何卒不意御了承を願います。

五十二第百七十號

昭和十一年
九月號

大村學堂小學校五十二編輯部

